

今年度の特記事項

1. 今年度も新型コロナウイルス流行下ではあったが、かがやきプラザ内の活動や区内各所で実施されている事業は、感染対策は求められたものの開催されていた。相談センターの職員体制についても、通常通りの勤務体制で継続することができた。年度途中で職員3名がコロナ陽性となったため、勤務体制を調整しながら業務が滞らないように努めた。
2. 在宅要介護者受入体制整備事業として、1名の対象者を医療機関へ繋げることが出来た。また新型コロナ拡大により医療機関での利用者の受入が出来ない場合は、在宅で支援ができる体制をケアマネジャーと連携しながら調整した。
3. あんしんセンター神田との連携強化の一環として、定例会議への出席、あんしんセンターが実施する高齢者見守り設置事業や個別ケース支援の進捗を共有しながら、相談センターも見守りや支援の実施を行った。
4. 法人が推進するICTを活用し、内部だけではなく外部機関との会議等においてもリモートを用いることで、関係機関との連携が円滑に進めることが出来た。
5. 今年度より受託した生活支援体制整備事業の活動については、特定の職員をコーディネーターとして配置するのではなく、相談センター職員全員を生活支援コーディネーターとして意識的に取り組みを行った。取り組みを行うにあたっては、事業そのものの理解を進めるとともに『衣類・衣服の購入』を一つのテーマとして掲げ、センター内で進捗を確認しながら実施するように心がけた。年度内には『衣類・衣服の購入』の催しの開催まで結びつけることができなかつたため、次年度の目標としていきたい。
6. 相談センターは、24時間365日総合相談支援の対応を行う窓口であるため、内部勉強会を定期的で開催し、倫理観を深めながら自分たちの役割をしっかりと理解するよう努めた。チームアプローチの実践や引き継ぎの正確性が求められるため、一人ひとりが力量を高める意識を持つことが課題である。

